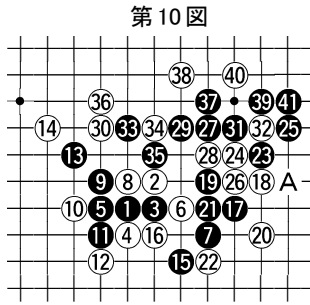


# 雲月・雨月桂馬挟みの研究(2)

九段 河村典彦

雲月・雨月桂馬挟みの研究、前回の続きから。

【第10図】前回と同様に打ち進め、黒23までに対し、白24が最強防である。ここで黒にはいろいろの手はあるものの、決め手に欠ける。

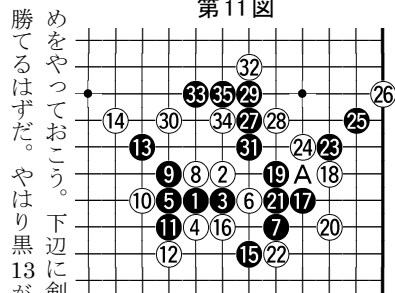


そこで黒25!にトビ三を打つのが気がつきにくい一手で、はるか先にある30の剣先となごうという狙いである。白26の中止めに黒27、29が妙フクミで、四を打ってからの含み手はなかなか実戦では打ちづらく、研究ならではのだろう。ここでいろいろ防ぐ手があるが、白30と剣先を止めるのが強そうだ。この手に対しては、惜しみなく黒31、37を利かせて黒37と引けばよ

うやく勝ちが見えてくる。黒41後A。なお、白30で34の防ぎも同様に黒31、37と引けば良い。

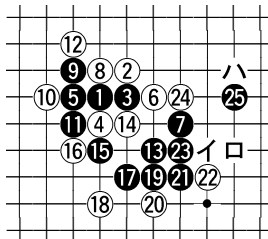
【第11図】前図で最後の黒41の三はその右の盤端に白石があれば、トビ三にならない。つまり、白26を盤端から止めるのが先を見据えた一手になる。こう打たれたら、今度は新たにできた剣先を遣うことを考えるのが自然である。ということで、今度は四を打たずに黒27と含むのがいい。次に黒30、33、34があるので、白28とノリ手で防ぐことになる。黒29と止めた手は呼手だが、白に追い勝ちの筋

第11図



【第12図】序盤に戻って白12の反対止

第12図



めをやっておこう。下辺に剣先ができたことで、前図よりも簡単に勝てるはずだ。やはり黒13が急所で、以下自然に攻めていけば勝ちが転がってくる。黒19は石数を増やさない方がよい。以下21、23と打ち進め、黒25後イロハまでである。

今回の連載を始めるきっかけになったのが、ヨーロッパ選手権に出場した際にアンツとこの形になったからである。

局後検討で白8には黒9でほぼ必勝だが、次図の白10の黒勝ちが不明とその後聞いた。そこで研究魂に火がついて、不明の白10にも今回黒勝ちを出したのが始まりとなっている。ということは、この作戦は欧州勢にはまだ通用するかな？

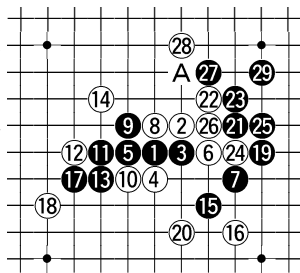
閑話休題。いよいよその最強防に移ろう。

がないので、結局防ぎに回らないといけなくなる。

やはり白30と剣先を止めるのが強防だが、黒31、35と引いて以下Aの四三となる。なお、白30を34なら黒32と上に引いて良いし、31なら同じようにAの四三を狙って良い。いずれの変化も序盤で引いた黒13が良く効いており、最後の追い詰めに役立っている。

【第13図】白10とこちらから押さえるのが最強防である。そこで閃いたのが黒11、13と休んでおく組み立て。以下様々な白14の防ぎに対する黒勝ちを探ってみよう。

第13図

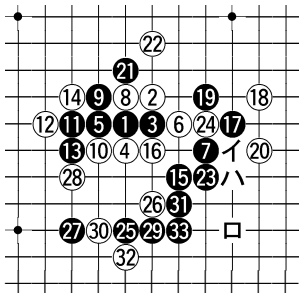


本譜の白14は三々を止めて非常に強く、まずは考えられる防ぎだ。この手に対しては黒15と打つのがこれまでも出てきた好点で、白16には黒17と一本こちらに引いておくのがおまじない。今のタイミングなら白18

に止めざるを得ない。そうしておいて黒19と引く。白20なら黒21と構え、Aを睨みながら黒勝ちが出る。白20を反対なら、下辺で三四三である。この変化でも黒17が利いている。

【第14図】白14の変化。この手は下辺に配慮した防ぎで、一路の違いが大きな差になることもある。黒は同じように黒15のトビ三から黒17、19まで組み立てる。この組み立てはいろいろな所出てくるので、ぜひ覚えておきたい。白20もこの形での急所で、たいてい最強防である。

第14図

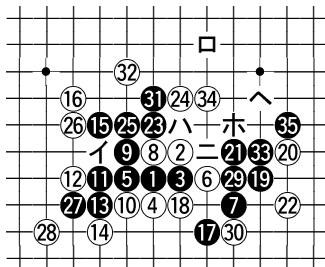


さて、ここで落ち着いて局面を見てみると、下辺が広そうである。そこで、下辺に焦点を当てて攻めることになるが、その前に黒21と一本逆に引くのがうまい手で、後の展開で役に立つ。黒25と四を打

ち、黒27と含むのが勝ちに導く一手となる。白はどこに防いでも五十歩百歩で、黒33後イロハとなる。

【第15図】白14は黒15と引けるのであまり白としては防ぎたくない場所だが、すべての場所をしらみつぶしに調べないといけない。甘く見ると思わぬ防ぎがあったりするのにもよくあることだ。

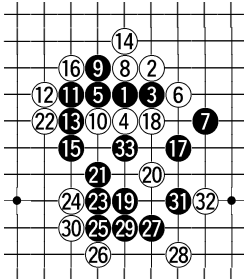
第15図



黒15と当然引くことになるが、その後はやはり黒17と21のコンビネーションが大事である。やはり白22が強いが、黒23から引き出して勝てる。最後の四追いは読みづらいが、黒35後イロハ二ホへとなる。

【第16図】白14の変化。この白14も剣先ができるだけに厄介そうだが、黒はそれを最大限に利用することになる。黒15、17を利かせられれば十分にお釣りは来る。黒19は寄り道をせず一直線に勝ちに行ったもので、黒21と無条件に引ければゴールが見えそうだ。黒23といつものようにミセ手で攻め、黒25がまだ盤端まで距離があるのが広さを物語っている。黒33まで両四追いが止まらない。

第16図



次回は残りの白14の防ぎについて調べてみよう。実は白にはまだ強防が隠れている。